令和８年度

合同輪投げ大会

皆さん、大ニュースです！！

五月に開催された合同輪投げ大会でなんと！

ふれあいの郷が「個人」「総合」共に優勝しました！！

合同輪投げ大会は、年に一回、市内の３つの

養護老人ホームが集い、合同で行われる輪投げ

大会です。

この結果はもちろんのこと‘まぐれ’なんかではありません。

大会に向けた練習の中で、楽しく・真剣に腕を磨いてきた、

その頑張りが今回の結果として身を結んだと思います！

本番前にも皆さん沢山練習され、もちろん緊張もあったと

思いますが、プレッシャーを跳ね除け次々と的に命中させる姿は

本当にかっこよかったです！！

参加された選手の皆さん！本当におめでとうございます！！

これからも楽しく、ワイワイと輪投げを続けていきましょう

そして、また来年の大会で連覇できるといいですね！！

（令和７年度 調査研究委員会第２回セミナー）

― 処遇改善加算とキャリアパスの運用に関する講義を受講して。自治体の外郭団体職員としての考察 ―

はじめに

近年、福祉の現場では人材の確保や定着が大きな課題となっています。特に自治体の外郭団体である法人が運営する当施設においては、年功的な処遇、異動を前提とした人事、正規・非正規職員の明確な区分といった制度的背景の中で、職員一人ひとりの役割や成長が見えにくい状況にあります。

こうした中、数年前より介護報酬制度に「キャリアパス」という考え方が導入されました。キャリアパスとは、昇進や役職を目指すためだけの仕組みではなく、それぞれの立場や働き方に応じて、どのような役割を担い、どのように経験を積んでいくのかを示す道筋です。以下に、キャリアパスの基本的な考え方とともに、介護報酬とは関係のない措置費で運営している当施設での導入の意義、メリットと留意点について整理します。

1. キャリアパスの基本的な考え方

キャリアパスは、全員が同じ階段を上ることを目的としたものではありません。経験や適性、ライフステージに応じて、さまざまな関わり方があってよいという前提に立っています。大切なのは、①今どのような役割を担っているのか、②次に何が期待されているのかを、明確に示すことです。これにより職員自身が自分の現在地を把握し、今後の成長の方向性をイメージしやすくなります。その結果、日々の業務にも目的意識を持ちやすくなると考えます。

2. 段階ごとの役割イメージ

(1)基礎的な役割

入職後は、業務の流れを理解し、指示を受けながら安定して仕事を行うことが求められます。利用者対応、事務、調理、介護支援など、それぞれの職種における基本を身につける大切な時期です。この段階では、確実に業務を遂行できることが何より重要であり、無理に役割を広げることは求めていません。

(2)経験を積んだ段階

経験を重ねることで、状況に応じた判断ができるようになり、周囲への気配りや後輩への声かけなども期待されるようになります。自分の業務に加え、職場全体の動きを意識した行動が増えていく段階です。

(3)役割の広がり

必ずしも管理職を目指す必要はなく、チームをまとめる役割を担う人もいれば、現場の専門性を高め、安定した支えとなる人もいます。いずれの立場も施設運営には欠かせない重要な役割であり、優劣をつけるものではありません。

3. 自治体の外郭団体である法人へのキャリアパス導入の意義

外郭団体が運営する当施設では、制度上の制約が多く、民間施設のように柔軟な処遇改善や人事運用を行うことは容易ではありません。そのため、職員の成長や貢献が見えにくくなりがちです。キャリアパス制度は、これらの課題を一挙に解決する万能な処方箋ではありませんが、「人をどのように評価し、育てていくのか」という視点を組織として言語化するという点において、大きな意義を持つものと考えます。

4. 制度導入によるメリット

(1)職員との対話の共通言語ができる

これまで、「頑張っている」「期待している」といった抽象的な表現に頼ることの多かった場面において、今どの役割を担っているのか、次に何を期待しているのかを制度として説明できるようになります。これにより、育成指導や面談が管理職・先輩個人の感覚ではなく、組織の視点に基づいたものへと転換しやすくなります。

(2)ベテラン職員の位置づけを肯定できる

当法人では、長年勤めているものの役職には就かない職員も多くいます。キャリアパスがない場合、「昇進していない＝評価されていない」と、本人自身も周囲の職員も誤解しやすくなります。キャリアパスを整理することで、現場を支える熟練職員・安定した業務遂行を担う存在として、役割そのものを評価する説明が可能になります。

(3)若手・中途職員の離職予防につながる

将来像を描けずに離職する若手職員もいます。キャリアパスによって「今はここ」「数年後はこの立ち位置」と示すことで、

当面の見通しを持つことができます。これは、処遇改善以上に心理的な安心感につながる場合があります。

5. 避けられない課題と留意点

(1)処遇と結びつけられない
当法人では給与表、昇格要件、定数管理が制度的に厳しく定められています。そのため、キャリアパス上は上位の役割であっても、処遇が変わらないという状況が生じやすくなります。「説明はされたが、何も変わらない」という不信感につながらないよう、丁寧な説明が不可欠です。
(2)評価制度と誤解されやすい
キャリアパスが、査定や選別のための制度だと受け取られることがあります。特に、年功的な働き方をしてきた職員や非正規職員にとっては、不安を感じやすい部分です。導入初期においては、説明不足が最大の弊害になり得ます。
(3)管理職の負担増加
キャリアパスは作って終わりではなく、面談や役割説明、不満への対応など、運用面で管理職の負担が増えます。制度があることで、かえって説明責任が重くなることも意識しておく必要があります。
(4)人事異動という組織文化との摩擦
数年ごとの異動が前提となる組織では、施設内で積み上げたキャリアがどのように引き継がれるのかという課題が残ります。法人全体としての整理がなければ、制度の効果が限定的にとどまる点には十分な配慮が必要です。

6. 注意すべき点

最も注意すべきは、キャリアパスの説明が「伝えたつもり」の自己満足に終わってしまうことです。制度を示したことで「分かってもらえた」と思い込み、職員の納得感を確認しないまま進めてしまうことは避けなければなりません。

おわりに

以上のことから、キャリアパスを処遇や昇進と無理に連動させず、役割の整理と対話のための道具として位置づけることが、現実的な運用であると考えます。キャリアパスとは「人を動かす制度」ではなく、**視座の高さよりも視野の立体性**――それぞれの立場から組織を多角的に見渡す力を互いに理解し合うための枠組み（人を理解するための枠組み）です。この認識を組織として共有し、丁寧な対話を積み重ねていくことが、制度の形骸化を防ぐとともに、役割の可視化・言語化を通じた人材育成の礎となると考えます。

コーヒーブレイク：老人ホームでの生活を考える…～雨夜の音楽～

梅雨の夜、窓の外で雨が降っている。 流れてくるのは、Phil Collins の「Another Day in Paradise」、そして Sting の「Englishman in New York」。 そこに、濡れた路面を走るタイヤの低い音が重なる。出来すぎた偶然だと思う。どちらの曲も派手ではないけれど芯がある。梅雨の湿った空気とよくなじむ。
雨音は、時間をゆるめる。輪郭をぼかし、世界を少しだけ静かにする。いつの間にか、すべての音が背景に溶けていく。音量を少しだけ下げると音楽と雨の境目が消え、「聴く」から「いる」へと感覚が変わる。贅沢とは、足すことではなくそこにあるものに気づくことなのかもしれない。同じ夜でも、忙しい日にはただの雨だったものが、今夜はきちんと音として耳に届いている。違いは外ではなくこちら側にある。こういう時間は故意につくることはできない。立ち止まったとき、向こうからやってくるのだ。
――ふれあいの郷の夜のフロアも、よく似ている。
灯りが落ち、音が引いていく時間。遠くの足音、かすかな気配。窓の外には同じ雨。利用者の一日が静かに過ぎていく。何も特別なことはなく、ただ、流れているだけの時間。それでも確かにそこには人の命が満ちている。

職員コラム

夏の訪れを感じながら

梅雨が明けると、いよいよ夏本番です。ふれあいの郷の周辺でも草木がぐんぐんと成長し、セミの鳴き声が聞こえ始めると、季節の移り変わりを感じます。

私は、季節を感じる行事や味覚狩りに参加することをとても楽しみにしています。今年は雪遊びやいちご狩り、潮干狩りなどに出かけ、自然や季節の魅力をたくさん味わうことができました。

利用者の皆様も、これまでの生活の中でさまざまな夏の思い出をお持ちのことと思います。日々の「今日も暑いですね」といった何気ない会話に加え、「昔はそうめん流しをしたよ」「子どもを連れて海へ行ったよ」などのお話を聞かせていただくと、私たち職員も温かい気持ちになります。これからも皆様と一緒に、季節を感じるひとときを大切にしていきたいと思います。

私自身、この夏はかき氷やそうめん、そしてキンキンに冷えたビールなど、ついつい食べ物や飲み物のことばかり考えてしまいます。花火や海水浴なども夏ならではの楽しみですが、今年も記録的な暑さになるとの予報が聞かれます。屋外で過ごす事に自分の体力が持つかなと心配もあります。近年の夏は、「暑いね」の一言では済まされないほど厳しい暑さですね。夏は楽しい行事が多い一方で、体調管理が欠かせない季節でもあります。屋外では帽子や日傘を活用し、こまめな水分補給と休憩を心掛けましょう。また、館内で過ごしていても熱中症になる危険があります。空調管理や衣類の調整に気を配りながら、元気に夏を乗り切りたいですね。ふれあいの郷全員でこの夏も健康で楽しく過ごしていきたいです。

話は変わりますが、先日、香寺町にある日本玩具博物館へ初めて行ってきました。私が子どもの頃に流行したハイパーヨーヨーなどのおもちゃが、今では歴史の一部として展示されていることに少しショックを受けましたが、さまざまなおもちゃの展示や体験を楽しむことができました。

利用者の皆様にとっては、さらに懐かしいおもちゃや遊びの思い出がたくさんあるのではないでしょうか。ふれあいの郷の2階談話室では、利用者同士で将棋を楽しまれている姿をよく見かけます。真剣な眼差しで対局される様子はとても素敵です。また、クラブ活動や読書などに熱心に取り組まれている姿にも、いつも元気をいただきます。
これからも皆様が安心して快適に過ごせる毎日を支えられるよう、職員一同努めてまいります。暑い日が続きますが、どうぞご自愛ください。

編集後記

いよいよ夏本番の7月になりました。暑い日が続きます。暑さで体力を崩しやすい時期ですので、こまめな水分補給をしながら無理なく元気に過ごして行きましょう。皆さまの笑顔あふれる毎日になりますように。